

第78回火山噴火予知連絡会・幹事会議事録

日 時：平成10年6月9日（火） 12時00分～12時50分

場 所：気象庁第2会議室

出席者：井田会長、浜口、藤井（敏）、渡辺、藤井（直）、石原、桐山（代理：国土庁）、濱田

事務局：三上、佐久間、安藤

1 委員の交代及び欠席等の報告

2 長期予測ワーキンググループの報告

1) 活火山サブグループ

ランク付け：噴火の頻度を基準としてその他の火山学的、社会的は要素を加味して3段階に分けた。

噴火の様式：それぞれの火山について、防災上の観点を加味して噴火過程（溶岩流、火砕流、マグマ水蒸気爆発、火山ガス）を分類した。

2) 長期予測サブグループ

三宅島：噴火の性質、地質情報を加える。

有珠山：過去300年間の噴火を考慮して火砕流の可能性を含める。

噴火地点の予測は重要であり、そのためには系統的な地殻変動を捕らえる観測網が必要である。

活動規模が小さく、活動頻度の低い山：

臨時観測点の拠点を作る必要がある。

建設省火山砂防のデータの利用を検討する必要がある。

活火山総覧の改訂：

今後の活火山の見直し等からの情報を取り入れる。

三宅島、有珠山について試しに実行して、その資料を基に次回検討する。

3) 火山情報サブグループ

一般的なルールとしてカラーコードをゼロから4と5段階にすることを議論した。

防災対応、予測との関係、レベルを下げる時の方法について検討した。

長期予測ワーキンググループの3つのサブグループについては、今年度中に結論を出す。次年度からはランク付け、活火山の主な噴火様式等の作業を開始する。また、火山情報についてもレベルが決まる段階には具体的に試行する作業が出てくる。この時は社会的要因については、国土庁の協力などが必要となる。

なお、今後の長期予測ワーキンググループの課題等についてフリーディスカッションの場がもたれて、活発な議論が交わされた。

3 岩手山の火山活動についての対応状況等について

観測体制の状況について各委員から聞き取りを行い、その結果を事務局でまとめて資料としたので、その説明を行った。

また、今後の観測計画について浜口委員から説明があった。

4 火山噴火予知連絡会のデータ収集システムについて

ハードウェアは整備したが、インターネットに接続するための事務手続きが終わっていない。今年度中には整える。

5 その他

委員名簿に間違いがあるので修正する。